

令和2年度 指定管理運営についての評価

1 管理運営の状況

1	施設名	仙台市若林図書館	仙台市広瀬図書館	仙台市榴岡図書館
2	指定管理者	株式会社 ヴィアックス	丸善雄松堂 株式会社	丸善雄松堂 株式会社
3	指定期間	平成30年4月1日 ～ 令和5年3月31日	平成28年4月1日 ～ 令和3年3月31日	平成29年4月1日 ～ 令和4年3月31日

2 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	所見	所見	
I	総則	1.施設の目的や基本方針の確立	○図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。 ○サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	○図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。 ○サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	○図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。 ○サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。
		2.施設目的の達成度			
II	施設の運営管理体制	1.職員の勤務実績、配置状況			
		2.開館の実績			
		3.指定管理料の執行状況			
		4.個人情報の保護	○職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は、仕様書のとおり適切である。 ○指定管理料は、適正に執行されている。 ○個人情報保護に努めるとともに、図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底している。	○職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は、仕様書のとおり適切である。 ○指定管理料は、適正に執行されている。 ○個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策は、徹底している。	○職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は、仕様書のとおり適切である。 ○指定管理料は、適正に執行されている。 ○個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策は、徹底している。
		4-2.情報セキュリティ対策			
		5.事故防止対策への取組	○危機管理マニュアルを作成し、必要な研修を実施している。	○事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を榴岡図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。	○事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を広瀬図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。
		6.事故発生時の対応体制の構築	○災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	○災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	○災害発生時の訓練は、適切に実施している。
7.災害発生時の対応体制の構築					
III	施設・設備の維持管理	1.建物・設備の保守点検			
		2.備品の管理			
		3.清掃業務			
		4.警備業務	○建物、設備及び備品は適切に管理されている。 ○カウンターでは持ち寄られた紙袋を本の持ち帰り用に希望する利用者へ提供するなど、環境へ配慮した取り組みがなされている。	○建物、設備及び備品は適切に管理されている。 ○施設全体で組織するごみ減量委員会に参加して、ごみの減量に努め、利用者が不要となったエコバッグを必要な人に提供するなど環境へ配慮した取り組みがなされている。	○建物、設備及び備品は適切に管理されており、毎日定時に館内を巡回し、事故・犯罪の未然防止に努めている。 ○利用者から提供される紙袋を本の持ち帰り用に設置するなど、環境に配慮した取り組みもなされている。
		5.環境への配慮			
		6.外構施設の保守点検・清掃業務			
		7.植栽・樹木等の維持管理			
IV	サービスの質の向上	1.職員のマナー			
		2.利用しやすい受付案内の実施			
		3.適切な利用情報の提供			
		4.広報等による利用促進の取組み	○利用者の意見を反映し本の取り扱いマナーを促す工夫、子育て支援コーナーの新設、中高生向け配架の工夫、大活字本の拡充等あらゆる層への配慮に努めている。	○視聴覚資料の展示コーナーの配置換えにより利用の促進を図り、ブックカートの貸出し数を増やす等、利用者への細やかな配慮に努めている。 ○接遇研修として認知症の方への対応を学び、全職員が認知症サポーターの認定を受けて様々な場面を想定したサービスの向上に努めている。	○限られたスペースながら、書架の配置換えや利用者の目線でラックの表示や掲示物のデザインを新しくする等により、サービスの向上に努めている。 ○研修を受講しやすい環境が整っており、遠隔研修等の各種研修へ積極的に参加し、参加者が研修成果を還元する報告も行われている。
		5.サービス水準の確保	○本社の人材育成基本方針に基づく年間研修予定表を作成し、全従業員対象の各種研修のほか、eラーニングコンテンツを活用した研修により職員の資質向上に取り組んでいる。	○仙台高等専門学校広瀬キャンパスと連携し、夏休みプログラミング工作会や英語多読教室を実施したほか、宮城総合支所保健福祉課と協力し、「認知症フレンドリー」や「自殺対策」に関する資料の展示および啓発パンフレットを配布するなど、外部機関との連携により、地域の特色を生かしながら魅力的な図書館事業を展開している。	
		6.職員の教育・研修			
		7.利用者の意見・苦情を抽出する仕組みと対応状況			
		8.利用者アンケートや利用会議等の実施			
V	施設固有の基準	1.カウンター業務	○子ども読書推進活動においては、のびすく若林や「新寺こみち市」など積極的に図書館の外に出て出前おはなし会を実施しており、ピリオバトル中学生大会などの定評ある事業を継続して行っているほか、独自の読み聞かせボランティア講座も実施し、新たな読書活動推進の担い手育成に貢献している。	○ヤングアダルト世代(中高生)に向けた読書活動推進の取り組みとして、選書アドバイザーとして学生を募り、ともに選書、展示、広報誌づくりを行うなど、積極的な取り組みを継続的に行うとともに、児童の朗読ワークショップや英語絵本の読み聞かせ等を行う「えいごdeおはなし会」を開催し、若年層向けの取り組みを積極的に行っている。	○ヤングアダルト世代(中高生)に向けた読書活動推進の事業としては、選書サポーターとして学生を募り、ともに選書・展示・広報誌づくりを行うなど、積極的な取り組みを継続的に行っている。また、広瀬図書館との連携により尚絅学院大学へ職員を派遣してワークショップを開催したり、生涯学習施設の事業研究として聖和学園短期大学の学生を多数受け入れた。
		2.蔵書管理業務	○地域団体「海辺の図書館」と連携し写真展とギャラリートークを実施するなど、震災の記憶の継承や震災文庫の利用促進を図った。 ○農業園芸センターとの連携事業では、分担収集分野である農業関連資料のPRにも努めている。	○仙台高等専門学校広瀬キャンパスと連携し、夏休みプログラミング工作会や英語多読教室を実施したほか、宮城総合支所保健福祉課と協力し、「認知症フレンドリー」や「自殺対策」に関する資料の展示および啓発パンフレットを配布するなど、外部機関との連携により、地域の特色を生かしながら魅力的な図書館事業を展開している。	○東口ガイドボランティア宮城野さんほみちと共同企画し「まちあるき歴史散歩 大正時代の地図とともにめぐる」を開催し、館内では関連資料の展示を行った。 ○ハローワーク仙台より講師を招き、就労支援講座「きいてみよう！おしごとさがしのポイント」を開催するなど他の機関との連携を積極的に図っている。
		3.自主事業の適切な実施			

【総合評価】
SS：特に優れている
S：優れている
A：良い
B：普通
C：可
D：不適

《施設設置者（仙台市）による評価》	《施設設置者（仙台市）による評価》	《施設設置者（仙台市）による評価》
令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、地域イベント「新寺こみち市」における「ヤギさんおはなし会」の継続、のびすく若林でのおはなし会など地域に向いて事業を行うとともに、図書館内のおはなしの部屋内に「子育て支援コーナー」を設けて、乳幼児親子に憩いの場を提供し、読書支援の充実を図った。 また、震災関連事業として「荒浜の思い出、そして今、未来へ～海辺の図書館写真展」を協働開催し、震災の記憶の継承に取り組み、震災文庫の利用促進にもつなげた。せんだい農業園芸センターとの連携事業では、宮城大学より講師を招き、地域農業に着目した講座開催と同時に、分担収集分野である農業関連資料のPRにも努めた。その他、聖ウルスラ学院英智高等学校の部活動監督によるスポーツ講演会、仙台出身作家を取り上げた講演会、人形劇、映画上映会、ぬいぐるみおとまり会等広い世代や分野に配慮した独自の事業を展開した。 図書館内においては、YA(ヤングアダルト)コーナー資料の配架場所を変更して入口にも新刊専用展示コーナーを設置し、中高生に利用しやすい環境整備に努めた。また、大活字本の書架の購入により配架場所を拡大して高齢者サービスの充実も図るなど快適な読書環境の提供に努めた。 職員研修については、個人情報保護や人権啓発、接遇などをテーマにした全従業員対象の研修のほか、専門分野への研修に積極的に参加して充実した研修体制を整えている。 今後も引き続き、民間のノウハウを活かした事業実施とともに適正な施設運営を期待する。	令和2年度は、宮城総合支所と「こころの声に耳をすませて～頑張りすぎいませんか？～」をテーマに悩みを抱える市民に寄り添う資料の協力展示や日本ベビーサイン協会認定講師によるベビーサイン体験会を行い本市が目指す「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現に向け取り組んだ。 中高生(ヤングアダルト世代)が読書に親しめるよう選書アドバイザーを募集し、中高生による自薦・他薦の読みたい本の選書活動やブックリストづくりなどの活動支援や本の紹介や本に関する会話を楽しむ読書会も引き続き行った。また、英会話教室の外国人講師を招き、子ども向けイベントとして英語絵本の読み聞かせや英語で手遊びなどを行う「えいごdeおはなし会」を開催し国際化社会における英会話教育のニーズを踏まえた特色あるイベントを開催した。 また、広瀬文化センター・市民センターとの共催事業「ひろせ寄席～愛子で楽しむ本格落語～」をはじめ関係機関、地域や地元企業と連携した自主事業もより一層の充実を図り、特色を生かしながら魅力的な事業を実施し、多くの参加者を得ている。仙台高等専門学校広瀬キャンパスとは様々な形で連携を深めており、夏休みプログラミング工作会は小学校でプログラミング授業が導入されたことにより市民の関心が高く、参加者からも高評価が得られた。 新型コロナウイルス感染症対策としては、独自のチェック表により館内の消毒や換気を徹底して管理するなど環境整備にも努めた。 職員の教育・研修においては、全職員向け接遇研修として図書館員が学ぶ認知症サポーター養成講座を実施するほか各種リモート研修にも積極的に参加し、職員の資質向上を図った。	令和2年度は、地域団体との協働により「まち歩き歴史散歩」を開催し、仙台駅東口周辺に点在する文学碑を巡るまち歩きを開催し、関連資料の展示を行うなど幅広い層に図書館のPRを引き続き行った。ハローワーク仙台の職員を講師に招き、コロナ禍における求人情報の活用術等を紹介するほか、歴史民俗資料館や、福沢市民センターと講師依頼や派遣を通じて、地域に根差した交流を深めた。 また、読書離れが著しい中高生(ヤングアダルト世代)への読書推進を目的に、中高生の選書サポーターを募集し、サポーターによる図書館の選書・POP作成・書架の装飾・ブックリスト作成等の支援を行った。聖和学園短期大学、尚絅学院大学と講師派遣や職場体験入などで連携を図り、図書館を担う専門職育成に貢献していることも高く評価できる。 図書館内においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の措置として、臨時カウンターの設営、クリアボード、受付時の足元表示、座席数の調整、定期的な除菌等に取り組んだ。館内の配置の工夫、SDGsの啓蒙活動を継続的なテーマとして趣向を凝らした企画など、限られたスペースを最大限に活かして魅力的で快適な図書館づくりに努めた。また、視聴覚資料の未所蔵館でありながら、SDGs関連の視聴覚資料について一覧表にして供覧したことなどから貸出し点数が伸びている。 今後も引き続き、民間のノウハウを活かした事業実施による図書館利用促進への取り組みを期待する。

総合評価	S	総合評価	S	総合評価	S
------	---	------	---	------	---

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市若林図書館
2	指定管理者	株式会社 ヴィアックス
3	指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 令和2年度：154,486人団体〔個人：154,318人，団体・文庫：168団体〕（前年度比 85.1%） 令和元年度：181,597人団体〔個人：181,302人，団体・文庫：295団体〕（前年度比 108.3%） 平成30年度：167,742人団体〔個人：167,357人，団体・文庫：385団体〕
		《事業》 仙台市若林図書館の運営管理
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 97,154千円 (97,045千円) ()は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 15,668千円 (16,415千円)
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 22千円 (39千円)
6	利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート 実施期間：令和2年12月10日（木）～23日（水） ・ 利用者懇談会 開催日：令和3年2月18日（木）

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事も適切に行われている。サービスの質の向上や利用促進のための取り組みもなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況、また、施設の開館状況は仕様書のとおり適切である。指定管理料は、適正に執行されている。個人情報の取り扱いや情報システムのセキュリティ対策を徹底している。危機管理マニュアルを作成し研修を実施するとともに、災害発生時の訓練は関係機関と合同で適切に実施されている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。カウンターでは、持ち寄られた紙袋を本の持ち帰り用に希望する利用者へ提供するなど環境へ配慮した取り組みもなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	利用者の意見を反映し、本の取り扱いのマナーアップを促す工夫をしたり、子育て支援コーナーの新設、中高生向け配架の工夫、大活字本の拡充等あらゆる世代に配慮した環境づくりに努めた。また本社の人材育成基本方針に基づく年間研修が計画され、全従業員対象の各種研修のほか、eラーニングコンテンツを活用した研修により職員の資質向上に取り組んでいる。	27/27
V 施設固有の基準	子ども読書推進活動においては、のびすく若林や「新寺こみち市」など、積極的に図書館の外に出て出前おはなし会を実施しており、ビブリオバトル中学生大会などの定評ある事業を継続して行っているほか、独自の読み聞かせボランティア講座も実施し、新たな読書活動推進の担い手育成に貢献している。 また、地域団体「海辺の図書館」と連携し、写真展とギャラリートークを実施するなど、震災の記憶の継承や震災文庫の利用促進を図った。農業園芸センターとの連携事業では、分担収集分野である農業関連資料のPRにも努めている。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（株式会社ヴィアックス）による自己評価》
<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止について適切な措置を講じた上で事業を実施するとともに、若林図書館の持つ特徴や地域特性を活かして、「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現を目標に運営を行った。事業を実施するにあたっては感染防止対策として、参加者、主催者ともに、マスク着用や手指消毒、体調確認などを基本に、参加者数に制限を設け、定例おはなし会以外は事前予約制とした。その他、密を生まないよう内容を変更するなどして、事業を実施した。</p> <p>自主事業については地域と連携した事業を中心に取り組み、図書館利用の促進を図った。中でも、震災関連事業として若林区荒浜地区で元住民と支援者との憩いの場づくりに取り組む民間団体「海辺の図書館」と協働し、『荒浜の思い出、そして今、未来へ』をテーマに、写真展を開催した。震災で被災した元住民の方々に集う場所を提供するとともに、仙台市図書館で進める『震災文庫』の利用促進を図る機会となった。また、区内のせんだい農業園芸センターと農業連携事業として「仙台の伝統野菜」に関する講座を実施し、地域の歴史を再発見する機会とした。加えて、「てんたん人形劇場公演」「POP de バトル」「文学散歩：山田野理夫と妖しき怪談世界」など年齢層に合わせた多様な事業を実施した。これらの取り組みにより、既存利用者の満足度を上げるとともに、新たな利用者の図書館への来館促進につなげることができた。</p> <p>職員研修では個人情報保護や人権啓発、接遇などをテーマにした全従業員対象の研修のほか、eラーニングコンテンツを活用した研修を実施し、専門性の向上に努めた。施設管理面では、視聴覚室の空調修繕工事を行い、館内設備を整備した。また、YAコーナーについては、蔵書を見直し、レイアウトを一新したほか、利用の多い大活字本などの配架を拡大するなど、親しみやすく快適な読書環境を提供することができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、地域イベント「新寺こみち市」における「ヤギさんおはなしかい」の継続、のびすく若林でのおはなし会など地域に出向いて事業を行うとともに、図書館内のおはなしの部屋内に「子育て支援コーナー」を設けて、乳幼児親子に憩いの場を提供し、読書支援の充実を図った。</p> <p>また、震災関連事業として「荒浜の思い出、そして今、未来へー海辺の図書館写真展」を協働開催し、震災の記憶の継承に取り組み、震災文庫の利用促進にもつなげた。せんだい農業園芸センターとの連携事業では、宮城大学より講師を招き、地域農業に着目した講座開催と同時に、分担収集分野である農業関連資料のPRにも努めた。その他、聖ウルスラ学院英智高等学校の部活動監督によるスポーツ講演会、仙台出身作家を取り上げた講演会、人形劇、映画上映会、ぬいぐるみおとまり会等広い世代や分野に配慮した独自の事業を展開した。</p> <p>図書館内においては、YA（ヤングアダルト）コーナー資料の配架場所を変更して入口にも新刊専用展示コーナーを設置し、中高生に利用しやすい環境整備に努めた。また、大活字本の書架の購入により配架場所を拡大して高齢者サービスの充実も図るなど快適な読書環境の提供に努めた。</p> <p>職員研修については、個人情報保護や人権啓発、接遇などをテーマにした全従業員対象の研修のほか、専門分野への研修に職員を積極的に参加させ、充実した研修体制を整えている。</p> <p>今後も引き続き、民間のノウハウを活かした事業実施とともに適正な施設運営を期待する。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市広瀬図書館	
2	指定管理者	丸善雄松堂 株式会社	
3	指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日	
4	施設の利用状況	《利用者数》 令和2年度：104,218人団体〔個人：103,955人、団体・文庫：263団体〕（前年度比 84.0%） 令和元年度：124,099人団体〔個人：123,598人、団体・文庫：501団体〕（前年度比100.2%） 平成30年度：123,852人団体〔個人：123,314人、団体・文庫：538団体〕	
		《事業》 仙台市広瀬図書館の運営管理	
5	収支の状況	《費用》 （ ）は前年度決算額	
		・ 指定管理者に支払った費用	54,869千円 （54,757千円）
		・ その他市が負担した費用	8,752千円 （8,880千円）
		《収入》	
・ 使用料収入	0千円 （0千円）		
・ その他収入	15千円 （26千円）		
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート 実施期間：令和2年12月10日（木）～23日（水） 利用者懇談会 開催日：令和3年2月5日（金）	

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された、施設運営上の基本方針に基づき管理運営されている。全館共通の業務や行事も適切に行われており、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みもなされている。	24/24
II	施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況、また、施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料も適正に執行されている。個人情報の取り扱いや情報システムのセキュリティ対策についても徹底している。災害発生時の訓練も関係機関と合同で適切に実施されている。事故防止のチェックリストに基づき館内を巡視するとともに、事故や苦情等の処理報告書を榴岡図書館との間で相互に共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。	30/30
III	施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。また、広瀬文化センター全体として組織するごみ減量委員会に参加し、ごみ減量に取り組むとともに、利用者を巻き込んだ取り組みとして不要になったエコバッグ等を必要とする人に受け渡すことができるカゴを館内に設置するなど、環境へ配慮した取り組みもなされている。	17/17
IV	サービスの質の向上	視聴覚資料の展示コーナーの位置を変え利用者の促進を図るなど、利用者の要望に応えるべくブックカートの貸出し数を増やし細やかな配慮にも努めている。接遇研修として図書館における認知症当事者への対応を学び、全職員が認知症サポーターの認定を受けるなど様々な場面を想定したサービスの向上にも努めている。	27/27
V	施設固有の基準	ヤングアダルト世代(中高生)に向けた読書活動推進の取り組みとして、選書アドバイザーとして学生を募り、ともに選書、展示、広報誌づくりを行うなど、積極的な取り組みを継続的に行うとともに、児童の朗読ワークショップや英語絵本の読み聞かせ等を行う「えいごdeおはなし会」を開催するなど、若年層向けの取り組みを積極的に行っている。また、仙台高等専門学校広瀬キャンパスと連携し、夏休みプログラミング工作会や英語多読教室を実施したほか、宮城総合支所保健福祉課と協力し、「認知症フレンドリー」や「自殺対策」に関する資料の展示および啓発パンフレットを配布するなど、外部機関との連携により、地域の特色を生かしながら魅力的な図書館事業を展開している。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂 株式会社）による自己評価》
<p>令和2年度の図書館運営は、独自に策定した基本方針と図書館振興計画の施策に基づき、事業計画を着実に実施した。1. 基本業務は、図書館の基礎的機能を充実させるため、職員対応の効率化を目指し業務全体の共通化・平準化を図った。また、新型コロナウイルス感染症への対策として、独自に作成したチェック表による館内消毒・換気の徹底等により、安心して図書館を利用できる環境づくりにも努めた。宮城総合支所との協力による地域課題の解決を支援する資料展示・啓発コーナーの設置にも継続して取り組んだ。2. 自主事業は、参加者の獲得と感染症対策の両立を目指した。行事毎に感染症対策をまとめるための様式作成等にも取り組みながら、併設施設や近隣施設との連携・協力による特色ある事業の実施に努め、年間事業参加者数は延べ4,682人に上った。3. 利用実績は、利用者数/日(延べ人数)で37.7人減、貸出冊数/日で153.9冊減、返却冊数/日で152.8冊減といずれも減少した。主たる要因としてはコロナ禍の影響が考えられる。図書館サービスの一部休止や不要不急の外出の自粛要請などにより図書館の利用が伸び悩む結果となった。4. 職員に対する教育研修は、指定管理者研修、仙台市図書館主催研修、外部研修を併用して実施した。コロナ禍において実施の増えたりリモート研修にも積極的に参加し、研修報告書の作成と全体会議での報告を通じた研修内容の共有についても継続して実施した。5. 運営の評価は、自己評価や市民図書館による定例監査のほか、第三者評価として「利用者アンケート」を実施した。また、図書館利用者等の意見・評価を得ることを目的に「利用者懇談会」及び「ボランティア懇談会」を開催した。6. 施設管理は、「仙台市公共施設点検要綱」に基づく定期点検を適切に実施した。また、入居施設である広瀬文化センターとの緊密な連絡により効率的な施設管理を行うことができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、宮城総合支所と「こころの声を耳をすませて～頑張りすぎていませんか?～」をテーマに悩みを抱える市民に寄り添う資料の協力展示や日本ベビーサイン協会認定講師によるベビーサイン体験会を行うなど、本市が目指す「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現に向け取り組んだ。</p> <p>中高生(ヤングアダルト世代)が読書に親しめるよう選書アドバイザーを募集し、中高生による自薦・他薦の読みたい本の選書活動やブックリストづくりなどの活動支援や本の紹介や本に関する会話を楽しむ読書会も引き続き行った。また、英会話教室の外国人講師を招き、子ども向けイベントとして英語絵本の読み聞かせや英語で手遊びなどを行う「えいごdeおはなし会」を開催するなど、国際化社会における英会話教育のニーズを踏まえた特色あるイベントを開催した。</p> <p>また、広瀬文化センター・市民センターとの共催事業「ひろせ寄席～愛子で楽しむ本格落語～」をはじめ関係機関、地域との連携事業、地元企業と連携した講演会等の自主事業もより一層の充実を図り、地域の特色を生かしながら魅力的な事業を実施し、多くの参加者を得ている。仙台高等専門学校広瀬キャンパスとは様々な形で連携を深めており、夏休みプログラミング工作会は小学校でプログラミング授業が導入されたことにより市民の関心が高く、参加者からも高評価が得られた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策としては、独自のチェック表により館内の消毒や換気を徹底して管理するなど環境整備にも努めた。</p> <p>職員の教育・研修においては、全職員向け接遇研修として図書館員が学ぶ認知症サポーター養成講座を実施するほか各種リモート研修にも積極的に参加し、職員の資質向上を図った。</p>	S

四 その他特記事項

(上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する)

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市榴岡図書館	
2	指定管理者	丸善雄松堂 株式会社	
3	指定期間	平成29年4月1日 ～ 令和4年3月31日	
4	施設の利用状況	《利用者数》 令和2年度：93,711人団体〔個人：93,619人，団体・文庫：92団体〕（前年度比 84.8%） 令和元年度：110,495人団体〔個人：110,296人，団体・文庫：199団体〕（前年度比 102.1%） 平成30年度：108,175人団体〔個人：107,967人，団体・文庫：208団体〕	
		《事業》 仙台市榴岡図書館の運営管理	
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 45,232千円 (45,232千円) ・ その他市が負担した費用 12,572千円 (12,349千円)	
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 13千円 (35千円)	
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート 実施期間：令和2年12月10日（木）～23日（水） 利用者懇談会 開催日：令和3年2月19日（金）	

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき運営管理されており、全館共通の業務や行事は適切に行われている。サービスの質の向上や利用促進のための取り組みもなされている。	24/24
II	施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況、また、施設の開館状況は仕様書に相違なく適切である。指定管理料も適正に執行されている。個人情報の取扱や情報システムのセキュリティ対策についても徹底している。事故防止チェックリストを作成するとともに、広瀬図書館と事故事例を共有し、ヒヤリハット集として整備している。災害発生時の訓練も適切に実施されている。	30/30
III	施設・設備の維持管理	建物及び設備は適切に管理されており、毎日定時に館内を巡回し、事故・犯罪の未然防止に努めている。利用者から提供される紙袋を本の持ち帰り用に自由に利用してもらえようように設置するなど環境に配慮した取り組みもなされており、備品も適切に管理されている。	17/17
IV	サービスの質の向上	限られたスペースながら、書架の配置換えや利用者の目線でラックの表示や掲示物のデザインを新しくする等によりサービスの向上に努めている。また、遠隔研修や各種研修へ積極的に参加し、図書館ニーズの把握に努めている。	27/27
V	施設固有の基準	ヤングアダルト世代(中高生)に向けた読書活動推進の事業としては、選書サポーターとして学生を募り、ともに選書・展示・広報誌づくりを行うなど、積極的な取り組みを継続的に行っている。また、広瀬図書館との連携により尚絅学院大学へ職員を派遣してワークショップを開催したり、生涯学習施設の事業研究として聖和学園短期大学の学生を多数受け入れた。東口ガイドボランティア宮城野さんぼみちと共同企画し「まちあるき歴史散歩 大正時代の地図とともにめぐる」を開催、館内では関連資料の展示を行った。ハローワーク仙台より講師を招き、就労支援講座「きいてみよう！おしごとさがしのポイント」を開催するなど他の機関との連携を積極的に図っている。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂株式会社）による自己評価》
<p>1. 令和2年度は、前年度末から新型コロナウイルス感染症が拡大し、年度当初は各種自主事業の休止や臨時カウンターでの開館であったが、その中でも指定管理者として「基本方針」と「仙台市図書館振興計画（第二次）」に基づき、地域の教育機関、団体等との連携を促進し、利用者サービスの向上を図るとともに、地域に根ざし親しまれる図書館を目指して業務と自主事業を進めた。</p> <p>2. 自主事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って一部実施を自粛したのものもあるが、まちあるき等開催できる事業を工夫した。その中でもSDGsに関する取組みとして、来館者へ関連資料を紹介（資料予約の推奨）する展示や、投票による意識調査を実施した。7月1日～8月30日に実施したアンケート「あなたの目標はどれ？」では一般書・児童書コーナー合わせて282票もの回答が集まった。次年度も引き続きSDGsの啓蒙活動を進めていきたい。</p> <p>3. 利用実績は、利用者数／日（延べ人数）が36.4人減、貸出冊数／日が97.9冊減、返却冊数／日が99.8冊減だが、予約冊数／日は22.5点増となった。6月から翌1月にかけては特にスマホをはじめとした予約の利用が多く、併せて当館では視聴覚資料は未所蔵にも関わらず、貸出点数も伸びていた。これは視聴覚資料の貸出点数が増えたこととともに、前述したSDGs関連資料の紹介として視聴覚資料を中心に取扱ったことも一因であると考ええる。</p> <p>4. 教育研修は、遠隔研修の他、文部科学省の図書館地区別研修等に積極的に参加し、図書館ニーズの把握にも努めた。</p> <p>5. 施設管理は、閉架書架の配置換えを行う等、限られたスペースでもより資料を活用しやすいように整えた。新型コロナウイルス感染症対策の一環として、席間の距離を取り、定時でアルコール消毒を行う体制とするとともに、定例おはなし会等については仙台市生涯学習支援センターと協力することで実施できた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、地域団体との協働により「まち歩き歴史散歩」を開催し、関連資料の展示を行うなど幅広い層に図書館のPRを行ったほか、歴史民俗資料館やハローワーク仙台、福沢市民センターとは講演会の講師依頼または派遣を通じて交流を深めた。</p> <p>また、読書離れが著しい中高生（ヤングアダルト世代）への読書推進を目的に、中高生の選書サポーターを募集し、サポーターによる図書館の選書・POP作成・書架の装飾・ブックリスト作成等の支援を行った。聖和学園短期大学、尚絅学院大学とは講師派遣や職場体験受入などで連携を図り、図書館を担う専門職育成に貢献していることも高く評価できる。</p> <p>図書館内においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の措置として、臨時カウンターの設営、クリアボード、受付時の足元表示、座席数の調整、定期的な除菌等に取り組んだ。館内の配置の工夫、SDGsをテーマに趣向を凝らした展示など、限られたスペースを最大限に活かして魅力的で快適な図書館づくりに努めた。</p> <p>今後も引き続き、民間のノウハウを活かした事業実施による図書館利用促進への取り組みを期待する。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館